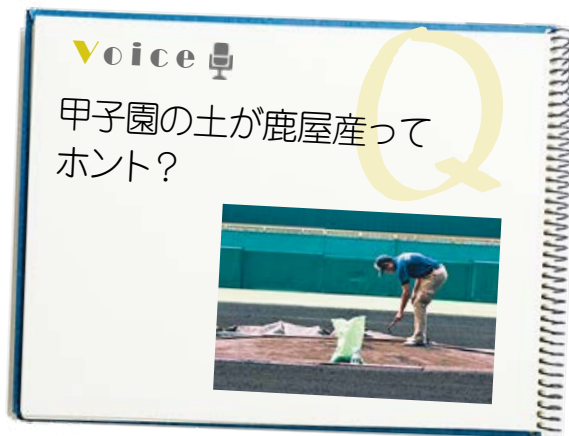




毎年、多くの高校球児たちが夢見、そして熱戦が繰り広げられる舞台「阪神甲子園球場」。そのフィールドの黒土には大隅・鹿屋の黒土が使われています。

敷かれている土は、水持ちの良い黒土と水はけの良い砂をブレンドした混合土。ボールが適度に転がる・跳ねる硬さでありながら、走りやすい具合になるように調整されています。当初は兵庫県熊内くまうちの黒土に淡路島の赤土を混ぜたものが使用されており、長年の調整によって黒土と白砂の混合土になりました。

以前は岡山県や大分県の黒土も使用されていましたが、現在では30年以上にわたり鹿屋産黒土が毎年補充されています。黒土には保水力と適度な粘り気や目の細かさが求められ、適切な土が毎年一定量採れる場所として、本市をはじめ大隅半島から黒土が運搬されています。担当者



が鹿児島まで足を運んで、土の度合いを確かめたこともあるとか。

オフシーズンである1〜2月には内野を掘り起こし攪拌かはんして1か月半掛けて固めることで、弾力のある下層と適度な硬さの表面を合わせ持つグラウンドに仕上がります。優れたグラウンドでは水分量も大切なポイントで、水が多すぎると泥になってしまい少なすぎると硬くなってしまいます。雨量によってもコンディションは異なるため、その時々に応じた調整を行わなければなりません。

そんな阪神甲子園球場の管理運営を行っているのが「阪神園芸株式会社」。水たまりができたグラウンドでも、匠の技で聖地を甦よみがえらせる技術は「神整備」とも呼ばれ、阪神甲子園球場の名物となっています。

もうすぐ夏の甲子園。鹿屋の土とグラウンドキーパーが、高校球児たちの足元でプレーを支えています。



「甲子園」の名前の由来

球場が完成するまでは、仮の名称として「えだかわ枝川運動場」と呼ばれていました。完成予定の大正13年が十干十二支じっかんじゅうにしの一番初めで縁起の良い甲子年きのえねだったため「甲子園大運動場」と命名。昭和39年2月14日に現在の「阪神甲子園球場」となり、周囲の地名も甲子園と呼ばれるようになりました。

POST CARD

8 9 3 - 8 5 0 1

鹿屋市役所 政策推進課

広報かのや

KANOYA 「読者のひろば」係 行

お手数ですが
63円切手を
お貼りください

お名前／ふりがな

電話番号

ペンネーム ※未記入の場合、イニシャルで掲載します

年齢／性別

歳 男・女

ご住所 □□□-□□□□

プレゼント

クイズの答え

要・不要



皆さんからのお便りを募集

広報誌への感想や取り上げてほしい話題のほか、市へのご意見、地域のイベントや写真など多くの情報をお寄せください。

お便りの中から、抽選で特産品等をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております！

※掲載時に原稿の一部を手直しする場合があります。

〒893-8501
鹿屋市共栄町 20-1
政策推進課
「読者のひろば」係
☎ 0994-31-1123